野外炊飯

期待される効果												
思考力	判断力	表现力	コミュニケーション能力	体力	生命尊重	離削する心	知識・技能	協調性	主体性	問題解決能力	課題発見能力	
0	0		0				0	0				
対象・人数				班分けの基準			時期		時間	10 de		
		□どなたでも 学児の場合は	たぐも 場合は要相談		一班4~8人程度			通年		2.5〜3時間程度 (会食時間込み)		
活動の目的 □作業を口通に進めるには沿割の公切が必要であることを知る。 (控調性の必要性)												
□作業を円滑に進めるには役割の分担が必要であることを知る。(協調性の必要性) □ものを作り上げる喜びを知る。(完成の喜び) □ □ □ □ □												
□火起こし等の作業をおこなうことで人間の文化の原点を知り、文明の発展に感謝する心を育てる。												
活動の様子 必要経費(食材費)												
			V-Tr	カレー・ハイ	・・ハヤシ ¥			フルーツヨ	フルーツヨーグルト		¥100	
				クリームショ				だご汁	-			
		ME EXIM		親子丼				バーベキュー		_		
			341	豚汁	·- · · ·				牛肉150g 豚肉90g		¥1, 000	
				味噌汁 (玉菊、口:	カメ、塩げ、	n±n é)	¥70		ウィンナー2本 人参30g 玉葱50g キャベツ50g			
	RIG			野菜炒め	(玉葱、ワカメ、揚げ、味噌) 		¥200		米1合 (150g)		¥100	
y 6.			カートンド						薪 (1束)		¥100	
天草青年の家で準備できるもの												
炊飯用具一式 □飯盒 □コッフェル(大・小) □羽釜 □大鍋 □蓋 □食器セット(カップ・容器)												
後片付け〈用具一式〉 □洗面器 □たわし □スポンジたわし □スチールたわし □庭ほうき、ちりとり												
会食	用用具	バーベキュー		ロブルーシー		物マサ ユギ	Mm.	Re-±	t delt SA	7,1	W7 641	
			炊飯□飯盒□ⅰ		カレー 親子丼 汁物 □ボウル □ザル			・ ボウル □ザル	炒め フル		ーツヨーグルト ナル	
		ロトング			コッフェル(大・小)		-	ロコッフェル(大・小)		ロザル		
	ュー別 !用具	□火ばさみ			な板(肉用・野菜用)			□まな板(肉用・野菜用)		ロまれ	□まな板	
	用兵 也道具		□しゃもじ □包丁		丁(肉用・野菜用)			□包丁(肉用・野菜用		類 □包丁		
			(大・小)		□包丁立て □お玉じゃくし					□お∃	Eじゃくし	
			□金棒		□フライ返し □ピーラー			□フライ返し □ピーラー				
□火ばさみ □金棒 □火ばさみ □フライパン □火ばさみ 利用者で準備するもの												
「おけれる C 年 編 す る C U)												
	袋 □新聞糾	₹ □救急用	品 □殺虫剤	り □虫除ける	スプレー							
	カレーの場合		バーベキューの場		場合 野菜炒砂		野菜炒め の)場合	カートンドッグの場合)場合	
メニュー	□カレー皿		□網 □炭(着火剤)□		うちわ	ちわ □サラダ油			□牛乳パック(パン1本に1箱		に1箱)	
別持参品	ロスプーン 口箸		□焼肉のたれ □塩コショ・		·3-	一口塩コショー			ロクッキングシート			
	□サラダ油		□皿 □箸 □コップ等			□その他好る	みの調味	味料 ロアルミホイ		トイル	'IL	
						意点	4					
□火傷防止のため軍手(ナイロン製不可)を使用すること。□包丁等刃物の扱いに気を付けること。 □日射と火による熱射により疲労度が激しいので充分気をつけること。												
						舎才スマレ						
山从欧煤竹	心で、 は計算	5に小り/依、	u)*/	ので移動の関		たポイント						
□雑木林の中での活動なので自然とのふれあいも楽しめる。												

活動内容(手順)											
所要時間	項目	内容									
	提出物	□石窯・野外炊飯食材注文表を提出してください。									
事前	事前打合わせ □活動場所 食材受取場所 時間 指導内容の確認										
	準備の確認	□服装 軍手 水筒 タオル									
	活動の説明	□健康観察 服装 持ち物チェック									
		□活動中の諸注意									
		□物品受け渡し(班毎にチェックシートに記入)									
		□役割分担									
		□火起し・調理法の指導(自主or依頼) 見 通し									
		・火のつけ方、消し方及び危険性									
30 1)	• 火加減、水加減										
		・調理法									
		・刃物、炊事用具の正しい使い方									
	目的の確認	□各団体(各班)の目的・目標を確認します。									
		※出きるだけ少ない本数のマッチで火を起こす。(目標本数を決める) 飯盒ご飯を焦がさないように工夫する。 ご飯とおかずの出来上がりを時間をできるだけ同時刻になるよう工夫する。									
	野外調理開始	□役割を確認し、取り掛かる									
		・食材受け取り 調理用具の片付け									
		・具材準備→調理									
		・食器・用具洗浄 一 配膳									
	食事	会食場のセッティング 口会食(全員でor班毎)									
90%	K.P	□会食 (全員でor班毎)									
	片付け	□片付けの分担と方法の確認									
		・食器洗い									
		一所定の場所に乾す(指導員が案内)									
		・飯盒、鍋類磨き									
		・食卓の片付け(コンパネ、コンテナ、すのこを雑巾で水拭き後返却)									
10%	まとめ	□健康観察を行います。									
		□目的が達成されたか確認します。									
		・各班の代表は感想発表・引率の方は講評									
		・引率の方は講評									
		□次の活動の準備を行います。									
翌日	点検	□利用した食器・調理器具の点検と返却をします。									
10%~30%		※洗い残しがある場合は、再度洗浄してください。									